

12月
December

コットンフラワー

花言葉 優秀 / 私を包んで

真冬の癒しのインテリア
もこもこあたたかな綿の実を飾って

プロが伝授! 花を長く楽しむアドバイス

- ドライフラワーで出回るので、水にいけずにそのまま飾りましょう。
- 茎から切りはなして、綿の部分だけをリースなどのオーナメントとして使用できます。中の綿を指でそっと引っ張るとボリュームがでます。
- 1本の茎についている綿の数が異なるので、用途やお好みに合わせて選びましょう。

お家で簡単! 3ステップアレンジ

- ① 安定感のある器を選び、水を入れずにいけます。まず、ブルーバードなどのコニファー類を器の口元にギュッといけます。
- ② コニファーの隙間に、コットンフラワーの枝を3本ほど長いまま立てるようにあしらいます。
- ③ 最後に短めのコットンフラワーの枝を手前にプラスして、綿のもこもこ感を強調します。コットンフラワーの枝がグラグラしないよう、コニファーを足して固定しましょう。コニファーもそのままドライになっていきますので、冬のあいだ中楽しめます。

ふわふわの真白に包まれて

衣服でなじみ深いコットンは、インド、中国、キルギスなど中東で栽培され、私たちの暮らしの中で欠かせないもの。夏にフヨウに似た花を咲かせた後、秋に綿の実ができるアオイ科の植物です。鑑賞用のコットンはイスラエル産が主力で、白のほかにブラウンがあります。ポンポンまるい綿毛が雪玉を連想させる、冬の装飾の定番アイテム。



使っている花 ■
コットンフラワー、コニファー
(ブルーバード)